



ブックレビュー

ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで!

社会福祉学科 教授 高橋 誠一

こんなタイトルの本は、そうそう図書館には所蔵されないだろうと思っていましたが、さすが東北福祉大学の図書館は見る目がある。タイトルだけでなく、カバーも刺激的です。残念ながら図書館ではカバーを外してあるのでその過激さが伝わらないのですが、赤いトサカの鶏の写真が表紙全体にあります。一体、タイトルと何の関係があるのだろうか。そこで帯を見ると、「その介護、地鶏派?プロイラー派?」と書かれています。ますますわからない。本当に介護の本なのか、一瞬考えてしまうぐらい刺激的な表紙です。

しかも本の中では、兵庫県西宮市で介護者と介護従事者の交流の場である「つどい場さくらちゃん」を運営しているまるちゃんと開業医の長尾ちゃんのボケとツッコミの掛け合い漫才のオンパレード。でも、内容はいたって真面目。いや、というよりかなり深刻です。介護と在宅医療の最前線で奮闘されている二人だからわかる現場の本音です。この内容をストレートに書かれたら、あまりにリアルで逆に読んでくれる人はいないかもしれない。そんな内容に読者を引き込んでしまう絶妙なやり取りが満載です。

実は、「つどい場さくらちゃん」にお邪魔しているときに、夜も更け「もう、お開きかな」と思っていると、突如、長尾先生がやってきて、「今度出す本の表紙ができた」と言って見せていただいたのが、この本でした。「これはかなり‘ヤバい介護論’ですね」と、当時流行の本のタイトルに引っかけて話をしていくうちに、明け方の4時になってしまいました。「本当に、超人的だ。関西は違うな。」ともうろうとしながら思いました。

そこで、過激的ではないけれど、折れない強さを感じさせる東北の本を紹介しましょう。増田進著『森の診療所の終(ついの)医療』です。医療過疎と言われる東北で、戦後日本の老人医療の原点となった沢内村(現岩手県西和賀町)の医療を先導した医師の本です。この春、20年ぶりに増田先生にお会いする機会がありました。そのとき、「沢内村の医療の本質を見誤ったために、日本の老人医療は地域から離れてしまったのではないかと改めて思いました。いま、高齢者の介護・医療では、地域包括ケアがキーワードになっていますが、「本質を間違っではない」というメッセージがこの2冊から伝わってきます。



『ばあちゃん、
介護施設を間違えたらもっとボケるで!』

長尾和宏、丸尾多重子 著、ブックマン社
所 在： 学生閲覧図書コーナー
請求記号： 369.263/ナカ/学関

『森の診療所の終(ついの)医療』

増田 進 著、講談社

所 在： 学生閲覧図書コーナー
請求記号： 498.04/マス/学関



本屋 大賞

— 書店員の投票だけで
選ばれます! —

「本屋大賞」という賞を皆さんも一度は耳にしたことがあるかと思います。「本屋大賞」とは年に一度、過去1年間で書店員自身が自分で読んで「いちばん売りたい」と

思った本を選び投票します。

数多くある文学賞が著名な作家たちが選考委員を務めるのに対し、この賞の一番の特徴は「書店員の投票だけで選ばれる賞」であるということです。2004年から始まり今年まで毎年続いています。(今年は上橋菜穂子さんの小説「鹿の王」が受賞しました)

2004年の第一回大賞受賞作から2012年までの大賞受賞作すべてが映像化されており「本屋大賞」のもつ影響力が感じられます。なんとなく芥川賞・直木賞などの受賞作品よりも読みやすい作品のように感じられますし、ちょっと読んでみようかなという気にさせられることは確かです。

賞が大きくなれば批判はつきもので、受賞前にベストセラーになったような作品がノミネートされている、大賞になった本ばかりが売れるようになってしまったような声もあるようです。

でも、大賞になった作品を読んだことがきっかけで読書に目覚めるといことは大いに考えられると私は思います。ひいてはそれが出版界を盛り上げていくことに繋がるのではないのでしょうか。

(雑誌係：菅原 裕生)

2015年本屋大賞受賞作品



『鹿の王』 上,下

上橋 菜穂子 著,

株式会社 KADOKAWA

所 在：ベストセラー

請求記号：ウエ / ベストセ

わたしの 本棚

— 長年愛されている
大人気の絵本 —

40年もの間、子どもたちから愛され続けている「からすのパンやさん」。からす一家の4羽の子育て奮闘の様子と、たくさん描かれているおいしそうなおパンが大人気の絵本です。

その続編が「からすのおかしやさん」、「からすのやおやさん」、「からすのてんぷらやさん」、「からすのそばやさん」。4羽の子ども(子からす?)たちのそれぞれが成長した姿が描かれています。

「からすのてんぷらやさん」は、黄色いからすのレモンさんのお話です。このお話は、てんぷらやさんが火事で消失、奥さんが行方不明、息子が目を痛めてしまうという、辛く悲しい出来事から始まります。落ち込むてんぷらやさんに、レモンさんをはじめとする仲間たちが励まし、力を出し合っ店再開にこぎつけます。それはまるで東日本大震災後の被災地で見られた光景のようです。優しい絵で描かれているこの絵本から、「どんなに辛いことがあっても、そばにいてくれる人がいる。だから頑張って生きようよ。」「苦しい状況にある人がそばにいたら、励ましてあげようよ。」「そんな力強いメッセージを感じます。

随所に描かれているからすたちは、「からすのおかしやさん」「からすのやおやさん」「からすのそばやさん」にも登場します。登場人物(登場鳥物?)のつながりを楽しみながら読むのも楽しい絵本です。また、どのお話もおいしそうなお食べ物たちがたくさん描かれ、つい食べたくなってしまいます。「からすのてんぷらやさん」を読むと、きっと天ぷらを食べたくなるはずですよ。

(障がい学生支援室：笠岡 望)



『からすのてんぷらやさん』

かこ さとし 作・絵、
偕成社

所 在：絵本

請求記号：726.6/カコ/絵本

— 学生が選んだ本 —

本屋へ
行こう

本屋さんに行ったことがないという人は、ほとんどいないと思いますが、本屋さんで思いっきり本を選んだことのある人はどれだけいるでしょうか。

さて、昨年11月に図書館のイベントとして開催された、「本屋へ行こう！」では、図書館サポーター5名が2時間たっぷり、そして思いっきり本を選びました。大学に置いて欲しい本、自分の興味のある分野の本、図書館の利用者にぜひ手にとって欲しい本などさまざまな本が選ばれました。そしてそれらの本は、図書館の大切な財産として受け入れられ、また彼ら手作りの素敵なPOP付きで展示もされました。

参加者の一人Mくんは、「本屋でカートを引いて、本の大人買い気分が味わえた！」と喜びのコメント。またAさんは、「図書館の利用者に『読んでもらいたい！』という気持ちにとまらず、たくさん本を選んでしまった」となんとうれしい発言。そして参加したみんなが、喉の渇きも忘れるぐらい真剣に本を選び、あっという間の2時間を過ごしたのです。



この企画は昨年で2回目。実際に本屋へ行って本を選ぶというもので、学生の皆さんに図書館をもっと身近に感じて欲しいとの思から始めました。図書館で手にした本が、みなさんの友人が選んだものか

もしれませんね。本で繋がる知の連鎖、体感してください。

(目録係：八巻 千穂)

— 先輩に聞きました —

つながる
図書館

私が勤務する羽陽学園短期大学は、幼稚園教諭・保育士・介護福祉士を養成する大学です。授業と実習に追われる学生に図書館を利用してもらいたい！先輩司書と2人、奮闘しています。

図書館では、貸出・返却、雑誌のデータ入力、図書装備（館外貸出準備作業）が主な仕事です。その他、イベント企画や図書館報の編集、蔵書点検など業務は多岐にわたります。日常業務において、継続しようと心がけていることがあります。図書装備の過程で新着絵本を読むことです。

「宇宙を感じる絵本はありますか？」ある日、こんな質問を受けました。スムーズに答えられなかったことが悔しく、とりあえず絵本を読むことから始めようと思いました。今では当初抱いていた「絵本=子どもの本」イメージが変化し、学生に一冊でも多く紹介しようと、展示や図書館Twitterを通し新着情報を発信しています。展示に目をとめたり、Twitterを見たとき声をかけてきたりする学生と話をする、実習での読み聞かせの様子や最近の流行など話題が広がります。学生と本との橋渡しのためと始めたことでしたが、学生から学ぶことも多く、自分の成長に繋がっていると感じています。

4月早々「おすすめの絵本は？」と聞かれ、新年度の始まりを実感しました。学生にとっては発してみただけの言葉かもしれませんが、それをチャンスに図書館の魅力伝えたいと思う日々です。



(羽陽学園短期大学附属図書館勤務 片平 睦美)

Extensive
Reading

— 多読コーナーの紹介 —

日本の中高生は、たくさん英語の語句や文法を学んでいますが、それらを活用する機会は、決して多くはありません。せっかく覚えた単語や文法も、活用しなければ、

その意味や使い方が定着せず、曖昧なままで、結局使い物になりません。それはまるで、不安定で崩れやすい積み木のタワーのようなもので、積み上げてきた英語の知識も、何かで補強しなければ、いずれ崩れてしまいます。

読みやすい英語の本や、聞き取りやすい英語のCD等を多読・多聴することは、この問題を解決する優れた方法です。多読・多聴では、自分のレベルに適した英語を読み、聞きながら、そのレベルに応じた語彙や文法事項に何度も触れることで、大きな基礎を備えたピラミッドのように様々な状況で活用できる本物の英語力を築き上げるのです。

東北福祉大学図書館には、千冊を超える英語の多読用書籍(小説、短編集等)が、レベル別に分類され用意されています。多くには、リスニング用のCDが付属しているので、多聴に役立ちます。東北福祉大学の学生、教職員であれば、



誰でも自分のレベルに合った(辞書なしで読める)本を見つけることができるでしょう。それらを週に1~3冊読むことで、多読の効果を感じることができるはず。ぜひ、図書館3階の多読コーナーを訪れて、その効果を体験してみてください。

(東北福祉大学教授 シュミット ケネス、講師 太田 総一)

図書館からのお知らせ

☆夏季休業中の長期貸出

期間：7月17日(金)～

返却日：9月18日(金)

対象資料：図書

*ベストセラーも含む、貸出冊数は通常と同じ。

変更の際は、図書館内掲示、HP等でお知らせします。

☆お知らせ

本屋へ行こう&展示について

9月にライブラリーサポーターによる本屋へ行こう(選書ツアー)を実施します。また、2Fフロアにて展示も予定していますので、ぜひお楽しみに。

— スタッフ紹介 —

今年度から図書館で勤務させていただく鈴木純平です。早く業務に慣れて、学生の勉強から先生方の研究に対してまで幅広くフォローしていけるように頑張っていきますので、よろしくお願いします。

(閲覧係：鈴木 純平)

— 編集後記 —

まだ6月だというのに、夏のように暑い毎日です。雨量も少ないので野菜も高いし、色々と値上げされたりと、明るい話題が少ないですが、『としょかんぼう』の紙面では明るい情報をお伝えします。

今回は、シュミット先生、太田先生からご協力頂き、多読の有効活用方法をお届けすることができました。また、書評を担当してくださいました高橋誠一先生ありがとうございました。

4月から編集メンバーに田上さんを迎え、益々面白くて、ためになる情報を提供しますよ。
〈五十嵐・田上・八巻〉

東北福祉大学図書館報「としょかんぼう」No. 21 2015年6月

編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

TEL:022-717-3309 FAX:022-717-3309

E-mail: etsuran@tfu-mail.tfu.ac.jp

http://www.tfu.ac.jp/libr/